

生産性向上支援訓練カリキュラム

B. 組織マネジメント	SDGsを理解し、自社ビジネスの成長につなげよう！
経営戦略	ビジネスとSDGs(持続可能な開発目標)の融合

コースの ねらい	世界中の企業がSDGsを経営の中に取り込もうと力を注いでおり、SDGsを経営に組み込むべく様々な取組が進められている中でSDGsの必要性を理解し、自社のビジネスの成長につなげる知識を習得する。
---------------------	--

対象	(中堅・管理者層向け) ・SDGsがどのようにビジネス成長のチャンスになるのか知りたい方 ・SDGsの取組み方法を知りたい方
-----------	--

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)	
講義 内容	1	SDGsの概要	<p>(1) SDGsとは 全世界で認識されている社会問題の解決を掲げたSDGs(持続可能な開発目標)とは何か、そしてビジネスにどう影響するか、あるいは企業存続・発展においてどんな効果があるかを説明する。</p> <p>(2) SDGsコンパスとは SDGsコンパスが規定している手順「SDGsを理解する」→「優先課題を決定する」→「目標を設定する」→「経営へ統合する」→「報告とコミュニケーションを行う」を説明する。</p> <p>(3) SDGs経営ガイドとは SDGsの精神は、日本古来からの「会社が世のため人のために存在するという考え方」や近江商人の「三方よし」、渋沢栄一の道徳経済合一説に合致している。その関係性も含めて、説明する。</p> <p>(4) SDGsとSociety5.0、DXの関連性 最近では、サイバー空間とフィジカル空間を融合させたシステムであるSociety 5.0やモノや社会の動きをデータ化するDXが高度化している中で、それをSDGsの実現策として適用する方法を説明する。</p>	1.0
			ミニ演習 目標1～17のうち関心のある目標の設定 (「個人として」でも「会社として」でも構いません)	
	2	SDGsの取組	<p>(1) SDGsを意識した構築の2つの方向性の考え方 SDGsへの貢献のための以下の2つの方向性を説明する。 ①自社のビジネスプロセスでSDGs準拠の方向 ②SDGsに貢献できる商品・サービス提供の方向</p> <p>(2) SDGsの取り組み事例の紹介 SDGsに取組む意義を踏まえながら、取り組み事例のポイントや構築した仕組みやプロセス、体制を説明する。と同時に、各企業が自らSDGsに取組むためのヒントも説明する。</p> <p>(3) SDGsに取り組むことのメリット (企業イメージの向上、社会課題への対応企業の生存戦略、新たな市場の開拓等) SDGsの取組を実現する時に、企業の存続や商品開発、市場開拓などを盛り込んで企画することが必要で、その方法を説明する。</p>	1.5
			演習1 提示した複数のSDGsの取組事例から自社に適用できそうな事例を選択して(もし適用できる事例がなければ、自分で取組を設定して)、「 自社への適用を踏まえたSDGsの取組事例のポイント整理 」	1.0
	3	開発目標の戦略	(1) SDGsコンパスを活用した企業取組 企業にとって、SDGsを経営戦略と整合させて、社会問題の解決に貢献することは存在意義に繋がる。SDGsの取組事例を用いながら、その貢献を測定し、管理する指針の作成ポイントを説明する。	0.5
			演習2 SDGsを意識したバリューチェーン構築の2つの方向性の考え方を踏まえて、「 ケーススタディで2つの方向性からSDGsバリューチェーン構想 」(グループディスカッション)	1.0
			発表 & 講評 演習1～2のアウトプットを講評者・参加者の前で発表する。 【オープン研修の場合】 グループごとに演習1と2者を発表 → 講師の講評	1.0
		演習 (補足説明)	SDGsを意識したバリューチェーン構築の2つの方向性(①自社のビジネスプロセスでSDGs準拠の場合/②SDGsに貢献できる商品・サービス提供の場合)を踏まえた取組事例をご紹介して、それを自社に適用する演習を行う。具体的には、SDGsの取組み方向性を検討する。	上記に 含む
			合計時間	6.0

カリキュラム作成のポイント
企業の使命が社会活動・社会生活における貢献であることから、社会課題を目標化したSDGsへの取組みは重要で、それが事業の存続・発展に奏功することが理解できる。SDGsを意識したバリューチェーンには2つの方向性があり、事業特性や既存ビジネスとの連動性等から、どちらに取り組むべきかを考え、事業化する方法を習得できる。

備考
受講者様には、筆記具のご用意をお願いします。